

16日閉幕した「第34回国際農業機械展 in 帯広」では酪農・畜産分野の先端製品も多く並んだ。記者の目を引いた4点を紹介する。

### ◆3Dカメラ搭載の新型搾乳ロボット 「VMS V300」



来春以降の納品を計画するスウェーデン・デラバル社の新製品。従来のセンサーに代わって3Dカメラが牛の乳頭の位置を確認し、素早く搾乳カップを装着できる。乳頭を洗浄する機能も改良し、乳房炎などの予防を徹底する。搾乳状況は装置にあるタッチパネルのほか、スマートフォンなどでも確認が可能。価格は未定だが、現行機種で2500万円程度。（デラバル）

### ◆飼料作物を細かく切断する収穫機 「SMR1020」



飼料用トウモロコシなどの収穫用で、理論上は最小6ミリと細かく切断できる。高密度のロールベールに仕上げられるため、乳酸発酵が進んでサイレージの品質が高まりやすくなる。微細に裁断する仕組みは農研機構と共同開発した。液晶モニターに作業状況が表示され、操作性が高いのも特徴だ。（タカキタ）

### ◆牛群管理システム「Velos（ベロス）」



オランダのネダップ社のシステム。首と足に装着できるセンサーで1頭ごとの動きや採食時間を把握し、発情した牛を見つける。受胎率向上と収益増加が期待される。情報はスマートフォンやパソコンでリアルタイムで確認できるほか、発情はメールでも通知される。道内約80件で導入実績があり、人手が不足する200頭規模の個人経営や公共牧場などで使われている。（土谷特殊農機具製作所）

### ◆ふん尿を牛の寝床に再利用する 「クイックコンポスターBC14」



幅2.6メートル、奥行きは8メートル近くある巨大なドラム洗濯機のような装置だ。ふん尿の含水率を下げた後、装置内を回転させながら発酵を促し、滅菌処理する。発酵時間は最短1日で済む。発酵によって臭いも軽減され、ふん尿を牛の寝床に敷く材料に再利用できる。寝床に敷く麦わらなどの調達が必要になるのがメリットで、道内で11台が稼働中という。トルコEYS社製。（コーンズ・エージー）